

目次

新県計画シリーズ（4）

□高生産性農林水産業の確立

- ★農業施策の基本方向……………8
- ★農業生産基盤の整備開発……………11
- ★農業経営構造の改善……………12
- ★地域的農業生産体制の確立……………13
- ★農産物流通加工体系の確立……………15
- ★森林資源の開発……………16
- ★林業経営の近代化……………27
- ★近代的水産業の確立……………29

□ここに人あり□

県有林を守る・楠元健蔵さん……………25

□県政なんでも相談室

漁業近代化資金を借りるには……………34

★随想ページ

能田秀一・鈴木小筆・山口白陽

□第2次農業構造改善事業の方向……………32

★県政の課題★

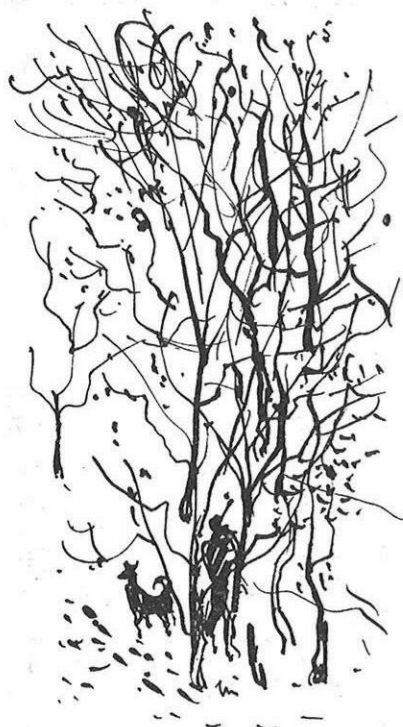
あなたを技術者に……………35

★グラビヤページ★

これからの農林水産、五家荘横断林道ほか

★センターカラー……………球磨川沿岸道路

★表紙……………山峡の駅（阿蘇立野）



省力養蚕で、ひと昔前とはだんちがいに能率があがる▶

▼広々とした共同飼育場でみんなの呼吸もピッタリ。



▶青空いっぱい共同桑園で楽しくつろぎ。



▲上簇前のカイコの状態を点検する。

若い養蚕家たち

★球磨郡相良村川

加江文機君（二七）

ひろびろとした桑園の中、若者たちの陽気な笑い声が聞える。桑をつむハサミの音がリズムカルにひびく。ここは、球磨川と川辺川にはさまれた高原（たかんば）台地の一かく。市房山や白髪岳など球磨盆地をとりかこむ山々のながめがすばらしい。働いているのは相良村養蚕経営改善研究会の若者たちである。

四・五年前から高原台地のいたるところで開田がすすめられたが、彼らは長い養蚕の伝統を受け継ぎ、さらに発展させようと張り切っている。暇をみて、グループで先進地研修にも出かける。ヤングパワーの台頭に、オツナ衆は目を細め、後継者難の心配はまったくないと胸をはる。

加江文機君は研究会の大規模経営部会長をつとめる。背が高く、頑健そのものである。父が村の養蚕農協長で多忙のため、中学卒業と同時に一家の働き手の中心となった。現在は桑園一・一ヘクタール、水田〇・六ヘクタール、和牛四頭という経営をまかされている。昭和四十二年、県の農業経営コンクール自立経営部門で努力賞を受けたこともある。将来は米をやめて、桑園二ヘクタール程度の養蚕専業農家を目指したい」と抱負を語る。スポーツやラン・盆栽が趣味という彼には、フアイトと落ち着きがあり、研究会のリードオフマンにふさわしい。

化繊全盛のなかで、絹の魅力が改めてみなおされ、養蚕の将来は明るい。桑を切り、蚕を飼い、繭の出荷に精を出す彼らの姿は若さと希望にあふれていた。